



さらなる企業価値の向上を目指して

日経印刷は、お客様に寄り添ったものづくりを大切に、信頼を積み重ねながら一步一步確かな歩みを続けてまいりました。今後もお客様に信頼していただけるパートナーであり続けるため、さらなる企業価値の向上を目指す大きな一歩を踏み出します。

まず、2026年の年明けとともに5名の取締役が就任し、新しい経営執行体制がスタートしました。これは、執行体制の若返りを図り、新風を吹き込むことを目的としています。

事業の継続においては、かねてより現場視点を有したうえで経営視点による意思決定の質向上を図ってきましたが、現場視点と経営視点が生み出す相乗効果のさらなる発露が不可欠であると考えています。就任となった5名は、直近まで各現場で指揮を執り、支えてきた得難い経験を有しています。経営陣一体となり、現場と経営の双方の視点で意思決定の質向上を果たし、持続的な成長を図っていきます。

次に、未来を見据えたグループ全体でムダのない生産体制を構築するため、将来に向けた設備投資を実施します。短期的には負担となっても、将来の生産性向上

代表取締役社長

廣瀬 智

による競争力の増強に向けて必要な投資です。

2025年はジャケットティングブック交互集積機により自動化を施した製本機をグラフィックガーデンに、長く現場を支えてくれた印刷機を2台更新し浮間工場に導入しました。これらの機器は、環境への貢献や品質、作業効率の向上はもちろんのこと、働き方改革とも言うべきオペレーターへの負荷低減の効果が大きいと期待されます。社員に寄り添い、活力と魅力にあふれる人と職場づくりを推進し、企業価値の持続的な向上と活力ある組織を目指します。

最後に、高品質で確かなものづくりを通じた当社の持続的な事業の継続は、社内外のすべてのステークホルダー、特に私たちのお客様、パートナー、サプライヤー、そしてすべての従業員に支えられています。当社は2012年より「CSRレポート」を発行し、取り組みの共有と今後の発展に向けての進捗状況をお示ししてきました。本号からCSRレポートに代わり、「サステナビリティブック」として発展させ、当社のさまざまな取り組みをサステナビリティの観点から皆さまにご紹介します。

これからも、持続可能な未来への貢献を続け、選ばれる会社になるために全社員が力を合わせて一步一步確実に前進していきます。

企業概要

日経印刷株式会社

| | |
|-------|---|
| 代表者 | 代表取締役社長 廣瀬 智 |
| 本社所在地 | 東京都千代田区飯田橋 2-15-5 |
| 電話 | 03-6758-1001 |
| 創業 | 1964年10月 |
| 資本金 | 8,000万円 |
| 売上高 | 114億円(2025年12月期) |
| 従業員数 | 410名(2025年12月時点) (パート、アルバイト含む) |
| 業務内容 | 企画・デザイン、編集、ライティング／DTP、出力等プリプレス工程全般／オフセット印刷(枚葉)／プリント・オン・デマンド／製本一式／表面加工／紙器・加工／仕分・梱包・発送／CD、DVD等メディア制作／Web制作／電子出版／白書製造請負、出版 |

認証取得

| |
|----------------------------------|
| ISO 14001:EMS |
| ISO 27001:ISMS(本社・グラフィックガーデン) |
| プライバシーマーク認定(JIS Q 15001) |
| FSC® CoC 認証 |
| グリーンプリンティング工場認定(本社・グラフィックガーデン) |
| Japan Color 標準印刷認証(グラフィックガーデン) |
| Japan Color プルーフ運用認証(グラフィックガーデン) |
| Japan Color マッチング認証(グラフィックガーデン) |

編集方針

日経印刷はこのサステナビリティブックを通して「事業活動」、「社会」、「環境」の観点でステークホルダーのみならずの期待に応えるために取り組んでいる活動を開示することにより、当社をご理解いただき、またステークホルダーのみならずとのコミュニケーションを深め、「人の想いをカタチにする情報加工産業の価値向上に役立てていくことを目的にしています。また、自社のサステナビリティブック作成を通してサステナビリティを学び、レポート、報告書作成のノウハウを蓄積することで、お客さまにより良いサービスをご提供することをめざしています。

報告対象組織

日経印刷株式会社

報告対象期間

原則として、2025年度(2025年1月～2025年12月)の活動を対象期間としています。

報告対象分野

本冊子は、日経印刷の事業活動、社会・環境に関する取り組みを対象としています。

ご意見・お問い合わせ

日経印刷のサステナビリティへの取り組みについて、ご意見・ご感想をお寄せください。サステナビリティ活動やサステナビリティブックの改善に活かしてまいります。

| | |
|------|--------------------------------------|
| 発行月 | 2026年4月 |
| 所轄部署 | 日経印刷株式会社 管理本部 人事総務部 |
| 連絡先 | TEL 03-6758-1001 FAX 03-3263-5814 |



詳しい情報は、日経印刷HPへ
<https://www.nik-prt.co.jp/>

※会社全体の概要については、別途「会社案内」に記載しています。



トライオート機^{*1}の出口を自動化 ジャケットティングブック交互集積機の 導入により作業自動化を実現

「グラフィックガーデン」は、企画から発送までワンストップを実現する日経印刷の主力工場です。これまで、制作・製版・印刷・製本、それぞれの部署で自動化により人による作業削減に取り組んで来ました。特に手作業が多い製本工程はこれまでも数々の自動化を図ってきましたが、今回はこれまでトライオート機での作業後に手作業で行っていた「取り出し」と「検査」、「包装机への投入」の作業を自動化しました。

「取り出し」と「検品」は、人の手で行っているため社員への負担が大きく、健康問題と作業効率に課題がありました。この課題を解決するのが「ジャケットティングブック交互集積機」(以降、製本ロボット)です。冊子の取り出し、検査は製本ロボットによる自動化で負担は軽減、不均一な検査精度が解消されるなど、品質の向上も期待できます。

今回の特集では、製本ロボットの導入に深く携わったグラフィックガーデン工場長の竹澤に話を聞きました。

*1 トライオート機:書籍にカバー、帯、スリップ(売上カード)、挟み込み印刷物を一工程で自動装着する機械。



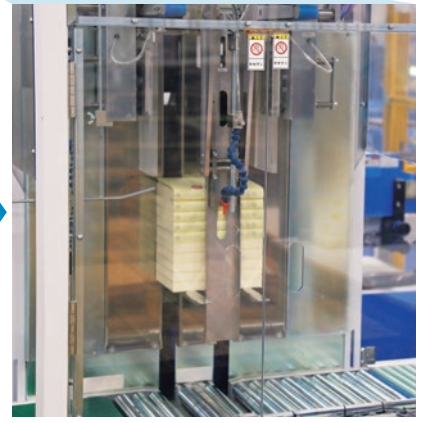
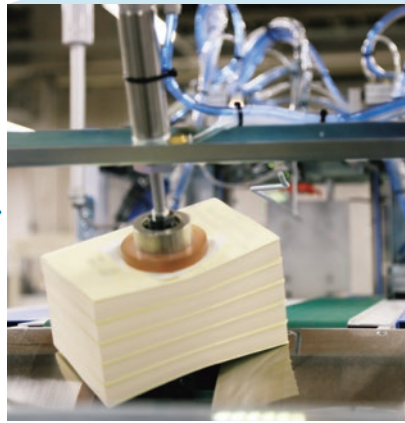
取締役
グラフィックガーデン工場長
竹澤 昇

製本ロボット導入の効果(目標)

自動化による作業の効率化
4,600冊/時間 → **7,000冊/時間**

自動化による人件費削減の実現
約 **1,780時間/年**

製本ロボット導入前後のプロセス



導入の経緯

トライオート機は、オペレーターの「一日中冊子を手作業で扱っているので負担が大きく、手首を痛めている」との話に代表されるように、身体的負荷軽減への声が寄せられていました。

このままでは身体的負荷が原因で離職を検討する可能性があること、また、不均一となっている検査精度、さらに重量の面で男性のみが担当している現状から、職場の多様性を促進するなど複数の課題を解決するため、最優先でトライオート機を自動化すべき工程であると判断し、情報収集を行ったうえで導入に至りました。

社員の健康問題による離職防止、女性活躍の推進、パートやアルバイトが活躍できる工程づくり、検査体制の強化を目的に導入提案を行い、東京都DX補助事業に事業計画を提出し、採択されました。



ジャケットティングブック交互集積機導入前の手作業風景

導入前の作業状況

トライオート機からカバー帯を巻いた5冊単位(約2~5kg)の冊子を人の手で取り出しているため、オペレーターのスピードに合わせた回転数で作業が行われています。1回当たりの作業は大きな重量ではありませんが、外観検査では5冊の冊子を把持して回転させるなどの工程を一日中繰り返すため、身体への負荷が伴うとともに、作業スピードも一定ではありません。その結果、手首に腱鞘炎などの健康問題が生じ、作業効率が低下していました。

導入後の効果

製本ロボットの導入により、これまでの①冊子は設置された検査カメラで品質チェック → ②ロボットが自動で冊子を5冊単位で取り出し → ③10冊単位で集積 → ④包装機へ自動投入、という工程が自動化され、手動による冊子の回転や検査の手作業が不要となってオペレーターの負担が大幅に削減され、健康面と作業効率の向上につながりました。

また、重量物の取り扱いをロボットが担うことで、女性でも安心して担当できるようになり、職場の多様性促進が期待できます。さらに、検査カメラにより不適合と判定された冊子は製本ロボットが自動的に排出するため、均一な検査精度による品質の強化と作業制度の向上に貢献しています。



4台のうち2台をリプレース
**省エネ設計で費用対効果の
高い印刷機を導入**

導入後の印刷機(EL-237P)



導入前の印刷機(SM102-2P)

浮間工場は、ビジネス書籍や学習参考書などの印刷物を得意とするモノクロ・2色印刷メイン工場です。

印刷機の導入から20年近くが経過し、年々進行する老朽化に伴う生産性の低下のほか、アナログなオペレーション操作が多いため印刷機の扱いには勘やコツなどの熟練度が問われ、オペレーターに過重な労働負荷がかかるといった課題もありました。

そこでこれらの課題を解決すべく、2025年6月に「令和6年度補正予算 省エネルギー投資促進支援事業補助金(Ⅲ)設備単位型」を受け、浮間工場2階の4台のうち2台を小森コーポレーション製の印刷機(EL-237P)にリプレースしました。

今回の特集では、導入に深く携わった浮間工場長の石塚に話を聞きました。



取締役
浮間工場長
石塚 隆広

新しい印刷機導入の効果

年間エネルギー使用量が
約1/3に削減

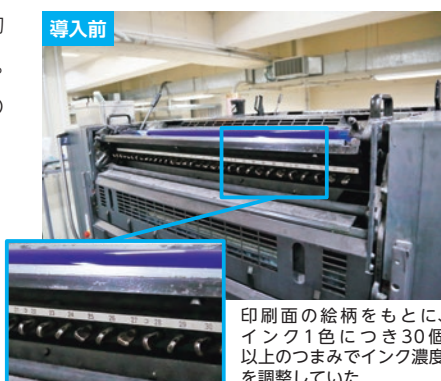
年間エネルギー使用量削減
導入前(SM102-2P) 導入後(EL-237P)
306.938kWh → 108.537kWh

EL-237Pで自動化されたこと

新しい印刷機 (EL-237P) の導入で、これまで時間がかかっていた印刷準備作業が自動化されて時間が短縮できたことで全体の作業効率化につながっています。また、検査作業が自動化されることで不適合品の発生に対する心配が減るなど、オペレーターの心理的な負担の軽減にもつながりました。

印刷面を機械が読み取り、インクの濃度を自動調整

これまで勤やコツに頼っていた手動による濃度合わせがなくなりました。刷り出し枚数の削減や印刷準備時間の短縮、品質の安定につながります。



検査カメラにより不良を自動検知

印刷機上の検査カメラが印刷中に紙面全体を検査します。印刷汚れやピンホール、油だれ、用紙の折れなどを検知し不適合品の混入を防ぎます。カメラによる全数検査を行うことで、次工程への不適合品の流出や刷り直しの回避につながります。



用紙サイズを自動判別

これまでオペレーターが用紙のサイズを測って用紙サイズを変更していましたが、オペレーションスタンドでの操作で簡単に用紙サイズを変更できます。

印刷プレートの交換を全自動化

印刷プレート (刷版) *1 を自動で交換します。 *1 印刷機に取り付けて印刷を行うための「ハンコ」のような版

環境配慮

環境方針

私たちは、社員一人ひとりが、かけがえない地球環境の保全の重要性を認識し、環境保護に配慮した日々の事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

1. 環境マネジメントシステムを構築・運用し、その継続的改善を図ることにより、環境の保全と汚染の防止を推進・実現します。
2. 以下の項目に関して、取り組みの計画を策定、実行し、定期的に見直します。
 - (1) 省資源・省エネルギー活動への取り組みを行います。
 - (2) 環境に配慮した商品の購入を積極的に推進します。
 - (3) 廃棄物の削減と再資源化に取り組みます。
 - (4) 使用禁止化学物質の管理体制を構築し、不買・不使用・非含有を推進します。
 - (5) 緊急事態への管理体制を強化します。
3. 環境保全に関する法規制と、当社が同意するその他の要求事項を順守します。
4. 社内環境教育を実施し、全社員に環境マネジメントシステムの理解と環境に対する意識の向上を図ります。
5. 環境方針を全社員に周知するとともに、社外に公表し、その達成に努めます。

2004年1月1日制定／2024年9月1日改定

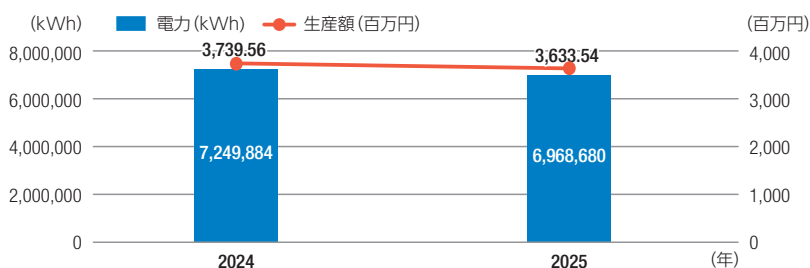
環境目標

日経印刷では、エネルギー単位の改善を目標としています。

省エネ法では、毎年原単位1%の改善が努力義務となっており、日経印刷は1kWh当たり生産額の3%を改善目標としています。

2024年には3%改善の目標達成しましたが、2025年は1%の改善にとどまりました。目標の達成に向け、日経印刷の印刷工場であるグラフィックガーデンでは、平素から取り組んでいる節電活動に加え、大規模な設備更新により、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

エネルギー原単位(全工場)



1kWh当たり生産額(円)

| | |
|-------|-----------------|
| 2024年 | 515.81 (円/1kWh) |
| 2025年 | 521.41 (円/1kWh) |
| 改善率 | + 1.09% |
| 増加額 | + 5.6 (円/1kWh) |

環境データ

当社では環境マネジメントシステムを構築し、省エネ、廃棄物の削減と再資源化、環境法規制の遵守等に取り組んでいます。



※事業所略称 G2：グラフィックガーデン 浮間：浮間工場 CS：Creative Square

FSC® 認証

日経印刷では、環境に配慮したもののづくりを大切に、森林資源を守り、森林資源を適切に使い続けるため、FSC® 認証を取得しています。

環境に配慮したFSC® 認証に対するお客様からのご相談が増えている現在、日経印刷ではお客様の課題解決につながる持続可能な資源利用を進めています。

認証製品には、FSC® のロゴを表示することができます。日経印刷の製品を通じて、お客様とともに責任ある森林管理を応援していく取り組みとなっています。



Ecovadis

日経印刷では、お客様に安心してお任せいただける企業であるために、サステナビリティの取り組みを進めています。その指標として、国際的な評価機関「EcoVadis」のサステナビリティ評価を毎年受審しており、2023年から3年連続で「ブロンズメダル」を取得しています。

「EcoVadis」は、企業の取り組みを「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の4つのテーマから総合的に評価する国際的な仕組みです。

日経印刷がこの評価を得ているのは、日々取り組んでいる環境配慮やコンプライアンス、サプライチェーン全体での責任ある事業運営が一定の水準として評価されている証と考えています。



ISO14001

日経印刷では、環境に配慮したもののづくりを続けるため、環境マネジメントシステムのISO14001を取得し、各拠点で日々の運用に取り組んでいます。

ISO14001は、事業活動が環境へ与える影響を管理し、継続的に改善していくための仕組みを定めた国際規格であり、環境パフォーマンスの向上や法令順守、環境目標の達成を支える枠組みです。

「人の想いをカタチに」する日経印刷は、紙資源やエネルギーなど環境とかわる部分が多く、PDCAサイクルに沿った運用を続けることで、各拠点の特性に合わせた環境改善を積み重ねています。

現在、大規模な設備更新も進めており、環境負荷の低減や省エネルギー化につながる取り組みを強化しています。



OUTPUT



リサイクル

2,617t

前年比 3.3% ↑

リサイクル率 96.4%

前年比 1% ↓
(t)

副産物計 2,715

廃棄物



18.8t

前年比 2.7% ↑
(t)

一般廃棄物 8.7
産業廃棄物 10.1

CO₂



3,965t

前年比 2.5% ↓
(t)

電気 3,243
ガス 712
水道 10

従業員とともに

社員の働きやすい環境や日々の業務に安心して取り組めるよう、各種研修を実施して人材の育成に取り組んでいます。また、安心して働くための環境整備として、近年企業に義務化された熱中症対策や防災に関する取り組みも行っています。

各種研修

当社は、親会社の日本創発グループが主催する階層別をはじめとする多様な研修への参加に加え、実践的な研修や日々の業務以外での学びを得られる社内研修も実施しています。社員が幅広く着実に成長できる機会提供に努めています。

2025年は日本創発グループ主催・合同研修を含め、10回の研修を実施しました。社内研修のコンプライアンス・ハラスメント研修は、一般社員（正社員・契約社員）の全社員に実施しました。同研修では、DVD視聴後にはグループワークを行い、法令順守とハラスメントについて理解を深めてもらいました。各部署から数名ずつが出席する研修だったこともあり、交流機会のひとつとして社内コミュニケーションの活性化にもつながりました。



コンプライアンス・ハラスメント研修の様子

2025年 各種研修

| 実施日 | 項目 | 対象者 | 参加人数(人) |
|---------------|-----------------------------|---------------|---------|
| 2月 7日 | 巻き込み力向上研修(日本創発グループ) | 中堅社員 | 6 |
| 4月 1日~7日 | 新入社員研修(日本創発グループ3日、社内2日) | 新入社員 | 17 |
| 4月 8日~5月 1日 | 現場研修(17日間) | 新入社員 | |
| 5月 16日 | フォローアップ研修(日本創発グループ) | 入社2年目社員 | 12 |
| 5月 23日 | 若手キャリアアップ研修(日本創発グループ) | 若手社員 | 10 |
| 6月 13日 | 仕事を面白くするワークショップ研修(日本創発グループ) | 直近入社中途社員 | 4 |
| 6月 20日 | 巻き込み力向上研修(日本創発グループ) | 中堅社員 | 5 |
| 7月 3日 | 管理職研修(日本創発グループ) | 新任管理職 | 4 |
| 9月 19日 | マネジメントシステム研修 | 新入社員 | 16 |
| 4月 11日~11月24日 | コンプライアンス・ハラスメント研修(全19回) | 正社員、契約社員(全社員) | 269 |

内部通報制度

役職員から寄せられた通報を適切に受け止め、迅速かつ公正に対応するため内部通報窓口を設置しています。通報は人事総務部が受け付け、事実確認や初期対応の検討を行います。その後、必要に応じて取締役へ共有して判断を仰ぎ、対応方針を決定します。最終的には関係部署と連携して是正措置や再発防止策を講じ、追跡調査まで行うことで、健全な組織運営とコンプライアンスの強化を図ります。



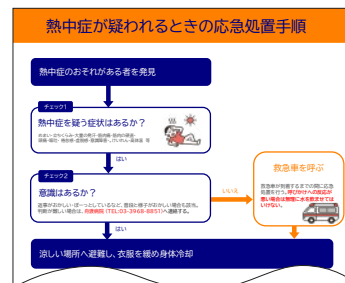
内部通報制度フロー



熱中症対策

2025年6月1日から労働安全衛生規則改正が施行され、職場における熱中症対策が義務化されました。社員の生命と健康を守るため、熱中症対策の応急処置手順を作成し、全拠点の各フロアに掲示しました。

当社においては長時間にわたる炎天下での作業はありませんが、熱中症の危険性のある部署には塩タブレットを常備し、こまめな水分補給を周知しました。



熱中症応急処置手順

安否確認システム

当社では、社員一人ひとりの安全を守ることを大切な責任と考え、災害時の安否確認体制を整えています。万が一の事態が起きた際にも迅速に状況を把握し、必要な支援につなげられるよう、トヨコム株式会社の安否確認システムを導入しています。

同システムを活用した安否確認訓練を年に1回、全社員を対象に実施しています。訓練では実際の災害発生を想定し、安否報告の手順や連絡体制の確認を行うことで、緊急時にも落ち着いて行動できるよう備えています。

今後も社員が安心して働ける環境づくりの一環として、安否確認体制の継続的な見直しと改善に努めていきます。

防災備蓄品

当社では、災害発生時に社員の生命と身体の安全を確保するため、必要な物資の備蓄体制を整えています。

これまでは水・食料・防寒用アルミシートを中心とした基本的な備蓄品を各拠点で管理し、緊急時に備えてきましたが、東京都帰宅困難者対策条例に従うとともに、近年、災害への備えとして求められる内容が多様化していることを踏まえ、2026年度は備蓄内容の見直しを進めています。特に、停電や断水が長期間続く事態を想定し、衛生環境を確保するための災害用トイレセットの追加を実施しています。この取り組みにより、より実用的で安心できる備蓄体制の構築をめざしています。

今後も、従業員が安全に勤務できる環境づくりの一環として、備蓄品の内容や管理体制の継続的な見直しに取り組んでいきます。



グラフィックガーデン工場の備蓄品

備蓄のの中身

人事データ



地域・社会とともに

グラフィックガーデンでは、小学生のみならず皆様に向けて、ものづくりへの理解を深めるための説明の機会を設けています。本が完成するまでの工程や仕組みについて紹介しています。

小学生の工場見学

小学生を対象に、“本づくり”の工程や仕組みについて紹介する取り組みを行っています。

印刷工程では使われる色数が「CMYK*」と呼ばれる4色であることや、色の濃淡が網点と呼ばれる小さな点で表現されていることを説明しています。また、製本工程では小さな中綴じ本づくりを体験してもらい、本づくりを体感できる機会としています。

参加した児童のみならず、説明を聞き、工程を確認しながら作業を進める場面が見受けられました。完成した本を通じて、本づくりの工程に触れる様子がうかがえました。

児童のみならずだけでなく、先生方からも「貴重な体験になった」との声をいただきました。今後も児童のみならずの学びや経験に役立つ取り組みを継続していく方針です。

* CMYK:C=シアン(青)、M=マゼンタ(赤)、Y=イエロー(黄色)、K=クロ(黒)。



“本づくり”について説明している様子

工場見学プロジェクト

お客様のニーズに応じた見学内容の提供や、日経印刷の事業理解促進を目的として、従来の工場見学の内容を見直すためのプロジェクトを立ち上げました。プロジェクトメンバー間で課題を出し合い、検討を重ね、2025年にリニューアルしました。

リニューアル後の工場見学では、これまでご案内を務めていた各営業担当に代わり、現場のプロである製造部門のメンバーが直接説明する体制に変更しました。専門的な観点から工程や設備について説明するとともに、実際の作業内容に基づいた説明を行っています。

リニューアルにあたり、説明用パネルの見直しに加え、各フロアに新たにモニターを設置しました。動画やスライドを掲示することで、実際の規模感や日経印刷の強みを視覚的に示す構成としています。お客様からも「とても勉強になった」「印刷工程の理解が深まった」と評価に関する声が寄せられています。

今後もお客様からの声を参考にしながら、工場見学の内容や運用の見直しを継続していきます。

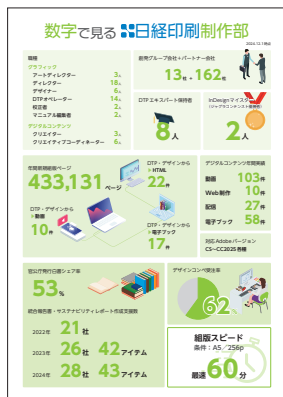


製版部社員による製版工程の説明

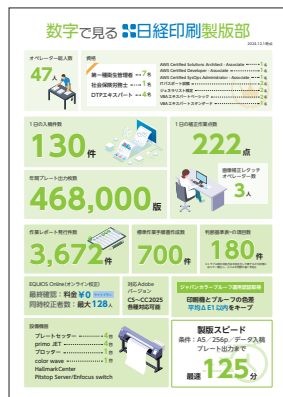


印刷部社員による印刷機の説明

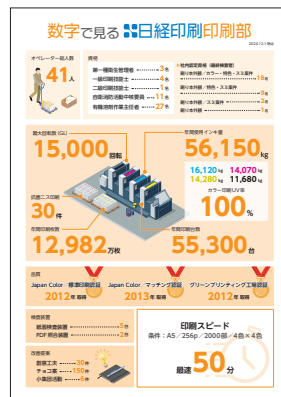
リニューアルされた説明用パネル(「制作」→「製版」→「印刷」→「製本」までの業務を数字で見えるようリニューアル)



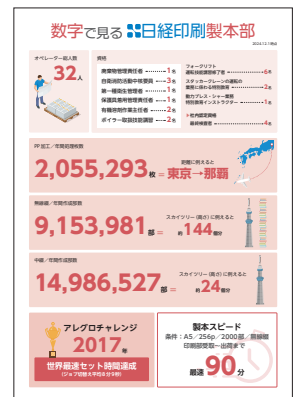
制作



製版



印刷



製本

お客さまとともに

日経印刷は、有識者様とともにサステナブル経営・ESGのご担当者様に向けた情報発信を行っています。

日経印刷 ESG セミナー

当社は、環境報告書やCSRレポートを経て統合報告書にいたる今日まで、企業レポートの制作をご支援してきました。現在も数多くの企業様の企業レポート制作をご支援しております。

20年に渡る企業レポート制作で得た知見やノウハウをもとに、有識者様と共同で最新のESG動向やトレンドをテーマとしたセミナーを毎年開催しています。



2025年に開催したセミナー

| 開催日 | 講師 | テーマ |
|--------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 3月14日 | 菅原 道 氏 | 「サステナビリティ開示の急進化」 |
| 5月29日 | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 松尾 拓樹 氏 | 「ターゲットニーズを踏まえた統合報告書の継続的改善について」 |
| | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 末 楓花 氏 | 「統合報告書における人権に関する情報開示と企業に求められる対応」 |
| 7月 3日 | 安藤 光展 氏 | 「ステークホルダー視点を強化したサステナビリティ開示」 |
| 11月 6日 | SOMPOリスクマネジメント 松島 聡子 氏、宮崎 柚香 氏 | 「サステナブルサプライチェーンマネジメント」 |

過去に開催したセミナー（2018年～2025年）

| ESGセミナー | | |
|---------------------|-----------|---|
| 2024年 | 4月25日(木) | 「統合報告書」を意味あるものに～WHATの観点からHOWの観点での報告に～ |
| | 4月25日(木) | 対話ツールとしての統合報告書で企業価値を最大化:最新基準と事例を活用した実践 |
| | 9月19日(木) | ビジネスと人権 サプライチェーン全体での人権尊重に実務担当者が取り組むポイントと最新動向について |
| | 12月12日(木) | ESG評価機関におけるESGスコアを高めるために |
| 2023年 | 7月 5日(水) | 企業価値向上に向けた人的資本経営の実践手法 |
| | 11月 2日(木) | 企業に求められる生物多様性・自然資本の情報開示 ～TNFD対応のポイント～ |
| CSRセミナー | | |
| 2023年 | 3月23日(木) | 2022年度 統合報告書のトレンド ～価値創造プロセスと価値創造による差別化の時代へ～ |
| 2022年 | 7月13日(水) | 企業価値を高めるESG情報開示戦略のつくり方 |
| | 10月26日(水) | はたらく人のWell-beingを高める人的資本経営と情報開示のポイント |
| 2021年 | 2月18日(木) | 変わる新常態へ、サステナブルカンパニーへの変革 |
| | 6月30日(水) | 気候変動リスク/チャンスを経営戦略に織り込む ～TCFDとSDGsの活用～ |
| | 11月 2日(火) | ESGに関する情報をどのように整理して開示するか? ～制度開示と任意開示の「統合」～ |
| 2020年 | 6月30日(火) | SDGs・ESG経営セミナー ～非財務情報開示の重要性～ |
| | 9月 3日(木) | ニューノーマルの時代とサステナビリティ ～何が起るかわからない時代に取り組むべきサステナビリティとは～ |
| | 11月19日(木) | 統合報告書「初級編」～まずは作ってしまおう!～ |
| | | 統合報告書「上級編」～意味のあるものを創る!～ |
| CSRセミナーと報告書制作支援のご紹介 | | |
| 2020年 | 2月21日(金) | SDGs・ESG経営セミナー ～非財務情報開示の重要性～ |
| | 3月 7日(木) | 2018年 CSR/ESG情報開示トレンド |
| 2019年 | 4月25日(木) | SDGsをめぐるリスクと機会 |
| | 9月19日(木) | 統合報告書のマテリアリティと中期経営計画との連動 ～企業価値を向上させるサステナビリティとは?～ |
| | 3月14日(水) | 持続可能な開発目標(SDGs)とESG経営 |
| 2018年 | 6月27日(水) | CSRの新たな潮流 |
| | 11月27日(火) | パリ協定・SDGs・ESG投資へのISO14001:2015を活用した取り組み |

グループ各社、パートナー会社とともに

日経印刷は、パートナー会社のみならずコミュニケーションを図り、良好な関係を構築していくことで、品質、納期、環境保全の維持向上にともに取り組んでいます。

グループ各社・パートナー会社の特性を把握

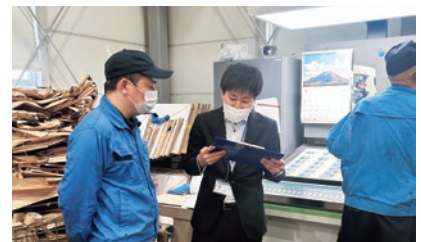
お客様からのニーズが多様化する現在、お客様が求める製品をお届けするため、グループ各社やパートナー会社の特性を把握して相談や依頼をすることに注力しています。特性の把握にあたっては、生産管理部所属の品質管理担当者はもちろんのこと、印刷や製本、加工の手配担当者がグループ各社やパートナー会社の現場を見学し、現場を知ることが重要視しています。作業現場を知ること、製造工程の理解や製造上の注意点を把握することが可能となります。その知見は、今後の印刷や製本、加工の手配への活用、品質上の注意点の営業との共有、お客様への仕様のご提案など、お客様の想いをカタチにするものづくりにつなげています。

品質管理担当者の訪問活動

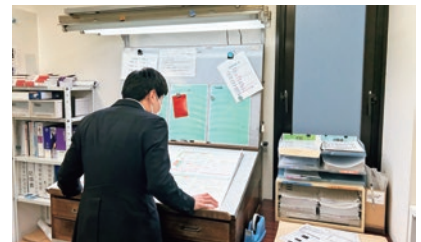
品質管理担当者は、グループ各社やパートナー会社の特性把握とは異なる観点でも現場訪問を行っています。各社の設備・従業員・作業環境・作業の流れ・品質管理体制をはじめ、機械設備のメンテナンス実施状況や製品の出荷前の検査方法などを同一の観点・基準で確認することで、各社の品質に対する意識や考え方、特質が明らかになります。それらを把握したうえで当社から品質管理でのお願いや各社の好事例を水平展開し、品質と生産性の向上を図っています。日々の業務においては、印刷会社には刷り出し*、製本会社には製品見本の提出をお願いし、生産管理部内で検査して品質状態を確認しています。

万が一の不良発生時には、対策を各社任せにせず、ともに改善策を講じることとしています。改善策は確実に実行可能な措置とし、その実施状況を見定めるために作業現場を訪問して情報の共有や確認を行い、各社と共同で再発防止に努めています。

* 刷り出し:本番の印刷工程で印刷機から出てきたそのままの中間製品。同じものを指す語として「刷り取り」「一部抜き」などもあります。



パートナーへの聞き取り



刷り出しの検査

品質情報の水平展開

品質に関する情報の周知や水平展開を目的として、発生事例を元に原因や不良についての対策などを写真付きで紹介した「品質ニュース(Quality_up)」を発行、配信し、各社との情報共有に役立たせています。近年では、品質面に加え、SNSへの投稿などに見られる情報管理についても細心の注意が必須であることから、各社従業員の方々への注意喚起に同紙を利用いただいています。



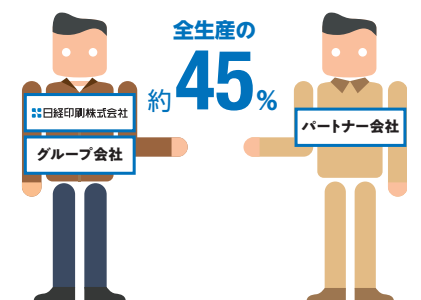
品質ニュース(Quality_up)

パートナー会社とのコミュニケーション

当社は、全生産の約55%を自社内とグループ会社で生産し、約45%をパートナー会社に委託しており、協業を持続的に成長するための有力な方策として位置付けています。現在お取引をさせていただいている会社数は、製造関連のほか、配送・発送関連のパートナー会社も合わせると230社以上に上ります。「お互いに相談しあえる関係」をめざし、企業理念の「公正な購買取引の慣行」のもと、すべてのパートナー会社に対して、公正・透明な発注・購買活動を心がけています。

パートナー会社の合計 **230**社以上

| | | | |
|------|---------|---------|--------|
| 制作関連 | 約 100 社 | 印刷関連 | 約 60 社 |
| 製本関連 | 約 50 社 | その他 | 約 25 社 |
| | | 配送・発送関係 | 約 25 社 |



品質方針

<https://www.nik-prt.co.jp/company/social.html>

情報セキュリティ・個人情報保護

お客様よりお預かりする情報を安全に扱うため、日経印刷は全社員が情報セキュリティと個人情報保護を意識し、明確な仕組みと継続的な教育・監査で体制を強化しています。お客様の信頼に応えるべく、安心できる環境づくりを丁寧に進めています。

情報セキュリティ方針

私たちは、お客様からお預かりした情報資産を社会に役立つ印刷物として世に送り出すため、下記のような取り組みを含んだ情報セキュリティマネジメントシステムを構築・運用・継続的に改善することを通じ、よりお客様にご信頼いただける会社を目指してまいります。

1. お客様からお預かりした情報資産は、社内ルールに則り、安全かつ適切に管理します。
2. 法令および規制の要求事項、お客様との契約上のセキュリティ要求事項を遵守します。
3. 外部からの不正アクセスや不審者の侵入を未然に防ぐよう、セキュリティシステムを構築し運用します。
4. 情報セキュリティを守るために必要な教育を定期的実施します。
5. 災害や障害等の緊急事態を想定した事業継続計画を策定し、その見直しを行います。

2009年1月1日制定／2024年9月1日改定
日経印刷株式会社 代表取締役社長 廣瀬 智

個人情報保護方針

私たちは、全ての社員が個人情報保護の重要性を認識し、提供する印刷物および業務サービスの中で、個人情報の保護のために最大限の努力を払っていきます。

そのため、個人情報保護マネジメントシステムを確立し、必要な教育と適切な監査を通じて、全ての社員に周知し、これを遵守させるとともに、継続的に改善していきます。

1. 個人情報を取得するときは、利用目的を明示し、本人の同意を得て行います。また、取得した個人情報を利用並びに提供する場合も、同意のあった利用目的の範囲内で適切に行います。
2. 取り扱う個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざん及び漏えい等を防止する為、合理的で適正な予防ならびに是正策を講じます。
3. 個人情報の取扱いに対し、個人情報に関する法令、国が定める指針その他の規範を遵守いたします。
4. 個人情報の取扱いおよび個人情報保護マネジメントシステムに関する苦情や相談は、誠実かつ適切に対応いたします。

2004年9月1日制定／2020年1月1日改定
日経印刷株式会社 代表取締役社長 廣瀬 智

ISO27001 & プライバシーマーク認証について

お客様よりお預かりする情報はじめ当社が取り扱う情報を適切に管理するため、ISO27001およびプライバシーマークの認証を取得、運用し、継続的に更新しています。定期的な審査を通じて運用状況を見直し、組織全体のセキュリティレベルを高めるとともに、お客様から安心してお任せいただける体制づくりを着実に進めています。

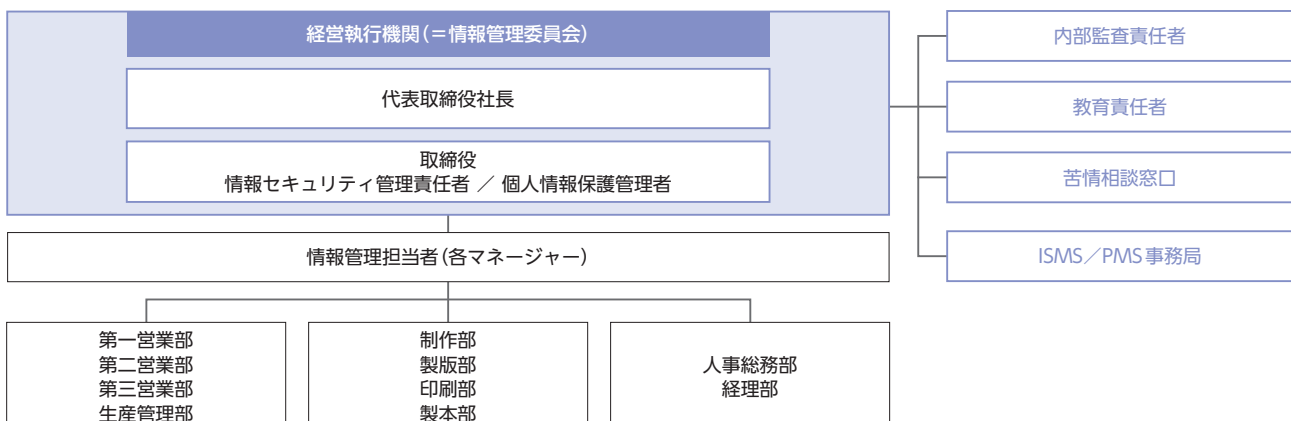


REGISTERED ORGANIZATION
No. I428-ISO/IEC 27001
(本社・グラフィックガーデン)



16190086

情報管理体制図



個人情報保護方針

<https://www.nik-prt.co.jp/company/privacy.html>

12 つくる責任
つかう責任



グリーンプリンティング (GP) 認定工場「グラフィックガーデン (G2)」から事業活動で必要とされる印刷サービス・印刷製品を調達すると、お客さまがSDGsで目標とする「目標12: つくる責任 つかう責任」に向けた具体的な取り組みとして実行したことになります。



グリーンプリンティング (GP) 認定とは?

GP認定制度は、日本印刷産業連合会が認定機関となって、日印産連「各印刷サービス」グリーン基準に基づき、客観的な証明によって認定され、認定マーク (GPマーク) が表示できる制度です。
印刷工場・資機材・印刷製品のそれぞれに対する認定制度によって成り立っています。

GP 認定とSDGs

12 つくる責任
つかう責任



GP認定は、地域住民から地球規模での環境対応が基準となっています。この基準は、随時見直され、労働安全衛生、緊急時対応の基準の追加などが行われています。SDGsで掲げられた「目標12: 持続可能な生産消費形態を確保する」に対応し、つくる側の要件を満たすことができます。



SDGs とは

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。エス・ディー・ジーズと呼びます。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた国際目標です。17の大きなゴールと、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



印刷物に GP マークを表示するには?

- GP 認定工場での印刷を行い
 - 印刷資材の環境配慮について一定水準以上を満たす場合
- 1・2 を満たし、工程の環境配慮が全工程か否か、印刷資材の配慮水準がどのレベルか、この組み合わせによってワンスターからスリースターまで3種の表示があります。スターの数が多いほど環境配慮の度合いが高いことを示します。



GREEN PRINTING JFPI
F-D10008
グラフィックガーデン
本工場は、環境に配慮したGP認定工場です。

GPマークは、印刷製品の製造工程と印刷資材が環境配慮されていることを示します

認定工場の認定番号

認定工場名



環境配慮の度合いを3段階で表示

日経印刷

検索